

一步前進

～落ち着いた雰囲気の中に活気のある学校をめざして～
3つの「あ」…「あいさつ・あきらめない・ありがとう」…をベースに

雨の日こそ歩く!!

～たくましい町小っ子に～

5月16日発行の学校通信『一步前進』第2号で、「まずは、歩いて登校を!!」とお願いをしました。今回は、さらにハードルを上げて、「雨の日こそ歩いて登校を!!」ということで、お願いをさせていただきます。



「雨の日こそ歩く!!」については、昨年度のPTA総会(4月及び2月)時や就学時健康診断(11月)の際にもお話をしたところですが、改めて記させていただきたいと思えます。

子どもたちは、これから先、予測不能であると言われているこの世の中を、生涯にわたって生き抜いていかなければなりません。ですから、私たち大人には、子どもたちが独り立ちするまでに、その生き抜く力を身に付けさせなければならない義務と使命があると思っています。

では、「生き抜く力」とは、何なのか。私は、どんな困難にもくじけない「たくましさ」と「しなやかさ」(柔軟性)だと捉えています。

そのために、今のうちから、「子どもたちが乗り越えられる多少の困難」は、敢えて、与え続けていく必要があると考えています。

では、具体的に何をすればいいのか?まず手っ取り早くできるのが「雨の日に歩かせる」ということです。

雨の中を歩くと、歩きにくいというのに、少々危険も伴うし、濡れて不快な気持ちもするし、とにかく歩きたくないのが本音かと思えます。しかし、生涯にわたって生き抜いていかなければならない子どもたちには、そういう「多少いやな経験」こそさせておかなければなら

ない大事なものと捉えています。

おかげさかもしれませんが、小学生時代に雨の中を歩いて登下校するという体験を積み重ねたことが、将来、いろんな困難にぶつかった時に、それを乗り越える何らかの力になり得ると考えます。

子どもたち自身が乗り越えられそうな多少の困難は、敢えて、少しずつ与え続けておく必要があります。子どもたちが困らないようにと、大人が先回りして気を遣いすぎたり動き過ぎたりするのはよくありません。

もちろん、雷雨の時や豪雨・土砂降りの時、台風の時などは例外ですので、そこは柔軟に対応していただければと思います。

子どもたちを車に乗せて送迎したくなる気持ちも分かりますが、「子どものために…」と、心を鬼にして取り組んでいただければと思います。

しばらくは、雨模様の日が続きそうです。子どもたちの将来を見据えながら、今でき



そうなことを、コツコツと少しずつ積み重ねていくことが、必ずや子どもたちの将来につながっていくはず。子どもたちを、よりたくましく育てていきましょう!!

校長室から

土曜日(6/15)にPTA主催のクラス対抗球技大会が町小体育館で行われ、私も、職員チームで参加しました。



ワンバウンドふらば～るバレーという、スポーツが多少苦手な人でも楽しめる球技で、好プレーあり、珍プレーあり…、思う存分楽しみ、いい汗をかくことができました。やはり、体を動かすというのはいいですね。保護者の方との親睦も図ることができ、充実した1日になりました。参加された保護者の皆様、ありがとうございました。そして、お疲れ様でした。ちなみに、優勝は2年3組チームでした。おめでとうございます!!